

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・新たな取り組みが奏功して客足が増えつつある。来客数が上昇し、売上につながることを期待している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価が前年比102%と近年では例を見ない幅で上昇している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・最需要期を迎え、3か月前よりは良いが、例年と比べると高レベルとは言えない。受注状況を見ても、月初から中旬までは順調に推移したが、後半になるにつれ低迷している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・休眠客の来店が多かった。
	変わらない	一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・販売量は平年並みだが、客単価が低くなっている。小分け商品など人の手間がかかるものが多くなり、同じ販売量でも以前より価格が抑えにくくなってきている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・寒い日が続く、飲食店へ出かける人が少ないのか、飲食店の納品が伸びなかった。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・冷え込む日が増えたため、鍋や煮物など冬物商材の動きが改善した。来店客数も前月より若干増加し、売上に寄与している。
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・良くもなく、悪くもない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・1月は厳しく推移したが、2月は店舗によって良し悪しがあるものの全体的に底堅く推移した。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・対前年比3%程度のマイナスで推移している。うるう年で1日多いことを考えれば、実際はそれ以上に厳しい。気温が上がらないので春物衣料の動きが鈍く、客の購買意欲が低下している。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・昨年末に新型車の発表があったが、期待したほどの受注増はなく、例年より少し伸びただけにとどまった。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・投資優遇税制の活用等を考慮して、年度末までに店内の改装やじゅう器を購入している、という話を聞く。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・前年に比べ新車受注が伸びたが、登録数は四国全体でも前年と同水準であり変化はない。四国内販売店の販売量も伸びてきていない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・客数は微減、若干の単価アップで前年並みを維持している状況が続いている。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・株価下落やその他の影響で景気が多少悪いと聞けるが、道後はイベント等でにぎわっており、売上に大きな変化はない。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・春休みに向け国内個人旅行の申込みが増加しているが、相変わらず海外情勢が不安定で海外旅行への申し込みが少ない傾向が続いている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・年度初めに向けての申込件数は昨年と変わらない。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・総務省のタスクフォースの関係で1月の駆け込み需要の反動により2月は販売が落ち込んでいる。これは景気動向によるものではないから、変わらないと判断している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客が端末購入金額に対して実態以上に値上がり感を持っている。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者の状況、予約状況からみて、あまり変化がない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・年末年始の反動で来客数はやや増えたものの客単価は低いままである。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒い日が続く、春物への転換が非常に遅れている。バレンタイン商戦も全体的にあまり良くなく、非常に厳しい状況が続いている。	

	商店街（代表者）	それ以外	・世界的株式市場の大幅低落は今なお複雑多岐な要因がどれ一つ収まりそうにない。きっかけ次第では世界的な大暴落相場にもなりかねない。地方経済の復活や創生は当面考えられないため、家庭の可処分所得は市場に正比例して低落する。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・年明け以降、来客数の減少が見られ、2月は前年比で1割以上減少した。
	商店街（事務局長）	販売量の動き	・プレミアム付商品券に昨年後半の売上を底上げしてもらえたが、商品券終了後に売上の反動減が起きた。また、年始から世界経済が不安定で、景気の先行きに明るさを見いだせないでいる。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客の状況と買上の状況を見ると、全体的に悪い。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・昨年11月中盤から売上が悪化しており、その後3か月間は改善が見られない。
	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・買上点数の減少が続いている。
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温に大きく左右されるが、来客数の前年割れが続いており、減少幅が大きくなっている。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・1週間のうちでは、後半に少しにぎわうだけで、やや悪い。市場の仲買人も物の流れが悪いとこぼしていた。
	その他飲食 [ファーストフード]（経営者）	来客数の動き	・客単価上昇により売上は維持できているが、客数は減少傾向にある。
	タクシー運転手	お客様の様子	・近場利用が多く、中距離の利用客が少なくなっている。また、乗客の話によると、外食の頻度も減っている。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・安倍首相の携帯料金の値下げ発言を受け、各社から新たなプランが提示された。それに伴い端末価格の見直しが行われたことで、法人客が引き続き様子をみている状態である。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・2月の売上高は、前月比10%増、3か月前比7%増、前年比3%増となったが、前年に比べ開催日が3日多かったことが要因であり、実質減少となった。また、2月に行われた四国地区選手権においても前年比8%減となった。本場を含む全体の売上高は5%減、総利用者も減少した。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・事業開始や設備投資を保留する客が出てきている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注が増えていない。
	悪くなっている	一般小売店 [書籍]（営業担当）	競争相手の様子 ・本の取次会社が自主廃業を発表したことに伴って書店も廃業するところが全国的に出てきている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き ・2月初旬には恵方巻が前年並みの販売を確保したものの、中旬以降は前年割れが止まらない状況だった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き ・街中の人通りは少なく、来店客数がかなり少ない。販売量の動きを見ても、買上率がかかなり低い。他社に聞いても、3か月前と比べて景気はかなり悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き ・例年2月は良くない。まだお遍路が始まっていないため街で仕事をしているが、昼間はある程度利用する客がいるものの、夜は特に暇になる。2時間待機して乗車した利用額が1,000円以下の場合が多く、なかなか水揚げが上昇しない。遍路客がいない分、昨年秋～12月と比べて売上、水揚げが極端に悪くなっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き ・1月に需要が高まったため、その反動の影響が大きい。
企業動向関連 (四国)	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・中国人観光客の爆買いの影響もあって、売上、利益ともに対前年度比で大きく上昇している。特にフェイスマスクや化粧品が伸びている。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き ・3か月前に比べ販売量が数%程度増加している。ただし、利益面に関しては、収益性の異なる製品の構成差に起因する微減傾向が認められる。
		輸送業（経営者）	取引先の様子 ・不安要素も多いが、ある程度受注確保できており、景気は底堅い。

変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・海外観光客が多い地区は相変わらず順調であるが、それ以外の地方都市の景況は良くない。小売店の淘汰が進み、優劣が付き始めているようで、全体的には厳しい。	
	木材木製品製造業	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要はまた感じられない。悪くはないが良くもないといった状態が続いている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・季節要因等で受注に若干の変動はあるが、大きな変化には至っていない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー設備の販売量は横ばいで推移している。	
	建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は横ばいで販売量は増えているが、景気は変わっていない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事ともに発注が非常に少ない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末の繁忙期に入り、売上は概ね目標を達成できているが、昨年のような上乗せがない。企業の得意分野で事業量に格差が生じていることが企業業績に反映されている。全体的に見れば変わらない。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年明け以降、客の動きは低調な状況が続いている。	
やや悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・1月と同様、産業用機械関連の受注が減少傾向にある。	
	輸送業（営業）	競争相手の様子	・消費者の購買意欲の低下により取扱物量が低迷する中、適正運賃の収受により経営の安定を図ろうとする動きがある一方で、業者数も多く競争の激しい本州圏より地方に貨物を求めて出店参入してきた業者による燃料油価格の値下がり追い風に運賃ダンピングが横行しており、採算性は二の次にしてまずは仕事を獲得しようとする動きが見られる。	
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・日銀のマイナス金利導入以降、顧客より新規融資案件や既存貸出金についての金利引下げ要請が増加している。住宅ローンについても過剰報道の影響を受け、顧客の金利選好が強まり、被借換えや金利引下げ要請が急激に増加しており、金融機関の収益性は低下傾向にある。	
	公認会計士	取引先の様子	・取引先の各決算書、試算表等の状況を見ると、対前年比で売上、利益ともに減少している企業が若干増えている。担当している企業のうち赤字企業が6割を超えている状況が続いており、景気は悪化している。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
(四国)	やや良くなっている	職業安定所	それ以外	・1月の月間有効求人倍率は1.42倍で、3か月前より0.18ポイント上昇した。雇用情勢の改善が進んでいる。
		民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・就職協定の変更の影響もあるが、求人票の受付数が前年より大幅に増えている。主に中小零細企業が今年度十分に採用数を充足できなかったことや、次年度に採用数を増やそうと考えている企業が増えていることが要因となっている。
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・依然として人材不足感があり、正社員の求人数も安定的に豊富な状況にあるものの、顕著な増加や変化は見られない。	
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・いろんな業種で求人数は増加しているが、求職者がいないというミスマッチな状況であり、当面変化はない。	
	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・業種によらず人員確保ができていない企業が多く、求人数が高水準にて推移しており、求人・採用活動が長期化している。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・広告しても消費者の反応が良くないという意見を客からよく聞く。確かに決算期が近づいて来たのに車は売れておらず、スーパーの客入りも良くない。ガソリン代が安くなったとはいえ遠出する人もほとんどいない。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・企業の採用意欲は高いが、雇用条件は向上していない。	
やや悪くなっている	-	-	-	

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---